**Iサムエル25：39-42　信者の姿勢**

**〇イエスの新婦ということを**

**忘れないようにしよう**

　イエス以外の他は見ない

　希望はイエスのみ

　同じ次元に置くことはない

**〇すでにイエスの所有と**

**なっている**

安全、安心しよう

**〇イエスと愛を分かち合おう**

耳：イエスの話

目：イエスのみことば

口：イエスを告白

鼻：聖霊の満たしをおいて

　　呼吸

朝起きたら、少しずつやろう

イエス様とひとつとなったことを味わわない理由はない。味わわないなら、損する。

味わうことを思う存分味わっているなら、あとは神様がなさる。

**思う存分味わうこと**

謙遜と信じる姿勢があるとき、味わうことができる。信仰に立たないと不信仰になる。イエス・キリストを信じた瞬間、変わった。　昔の人間ではない。戸籍が変わった。つまり存在が変わった

1.イエスの新婦となった

1)ルカ10:20（いのちの書）

　悪魔の戸籍→神の戸籍に変わった

2)ローマ8:15,29（養子、兄弟）

　イエスと同じ系図に名前が入った

　イエスのものになった。イエスが長男

3)黙示21:2　イエスの新婦

2.イエスと一つになった

1)創2:24ひとつとなる。イエスが私の中に、私がイエスの中に

2)Iコリント3:16中に聖霊が宿る

3)ヨハネ7:25　イエスが父の中に、父がイエスの中におられるように。私たちの中にもおられる。ひとつとなった。これが神秘

4)エペソ1:23　ひとつ、これが教会。

　キリストが頭、私たちがからだなので、ひとつ。キリストのすべての満ち満ちたさまが私たちにも。

5)聖餐式：ひとつとなった告白。

イエスの血と肉が私のもの、私がイエスのもの、イエスが私のもの

6)ローマ8:29　このようなことを

イエスのかたち。悪霊と暗やみが見たとき、私たちがイエスに見える、権威があらわれる

ほかのことに思い煩い、心配は不要

3.今までの世の希望とはちがう

1)ピリピ3:20天の市民、永遠の天国が希望

　世にあるもので試みに会わないように

2)使徒1:8　世界福音化が希望

3)ヨハネ14:12イエスがなさったことが私を通して現れる。残りの生涯、これだけを私の希望としよう

4)神の国が臨むことが希望

答えを与えて生かす者になる。これが希望

このようなことは、私ではできないから信仰によって、これを喜び、幸せになるように

イエスを信仰で告白して、天からの喜びと幸せに深く入ろう。主を待ち望み、主を呼び、祈りに専念する時間を持とう

**最高の謙遜**

1.人間と自分がどれほど絶望的な存在かを知っていた

1)ローマ3:23すべての人が罪を犯したので、絶対に神様に会えない存在だと知っていた

2)エペソ2:3神様を離れただけではなく、生まれながら神様の御怒りを受けるべき子

3)ヨハネ8:44身分が悪魔の子。悪魔が私の父

これをアビガエルが知っていた。

ルツも知っていた。

このような存在なので、恵みを受けることができるのか。

2.真実な告白をする

1)詩51:5罪の中で生まれた。神様の前で告白したことはあるのか

2)イザヤ6:5私はくちびるの汚れた者、からだ全体は腐っている

3)Iテモテ1:15パウロの告白。罪人のかしら

4)ローマ7:28死のからだ。希望がない者と言った。

このように告白するしかない。これが信者の姿勢。アビガエルはその姿勢を見せた

3.神様から愛されて祝福される資格なし

1)神様の祝福から無縁

2)神様の愛を受ける者ではない

3)私の人生には希望の光はまったくなし

4)人生が勝利することはありえない

ゆえに

誇りも、挫折もなく（どちらも錯覚）

ただ、感謝しかない

**すこしもとまどわずに信じる**

信仰の法則。遠慮するのは信仰ではない。

資格ないけれど、それゆえ、少しの理由もとまどいもなく信じる。

1.いままでの文化の中の理論を捨てる

1)宗教理論　2)律法理論　3)因果応報

このようなものはまったく気にせず、捨てることが信仰

信仰の中にはただ(無料)以外に答えなし

神様がくださるものを受けるしかない

謙遜な告白とともに、すぐに信じる

2.どんな理論、条件にも邪魔されずに

　無条件に信じる

　信仰以外の他の道はないので

1)すべて失っても

　①マタイ19:29-30家、兄弟、親を捨ててイエスについていく

　②マタイ16:24自分の十字架を背負ってイエスについていく。いのちを失ってもイエスを信じない理由にはならない

　③ルカ14:14-24信じない理由はない

2)どんな障害があっても

　①バルテマイ-だれが妨げても信じない理由にならない

　②社会雰囲気、人間関係、家庭の面で

　　信じないようにさせるとしても

　③ルカ9:56-57イエスについて行く（信じる）のには理由なし

3.だれでも信じるべき

　だれでも信じることができる

－どんなことも信じない理由なし。

この信仰の奥義わかることから信仰生活が始まる。そして、続けて信仰、信仰によって。信仰は条件はない。

信仰は神様からのプレゼント

資格がない者が恵みを受けたので葛藤はない。感謝以外はない。信じよう

日本の文化

〇おかえし

　ただ（無料）でもらえる

　ことに拒否感があり、

　純粋に受けられない

〇後に責任を負うことがないように、後悔しないようにする

－慎重に、完ぺきに

この良い文化が

福音の中で信仰に生きる

　ことに障害となる

人間の頭で考えられる最高の次元を越えることなので、慎重にしても答えはない

文化によって

　信仰によって生きる

　ことができなくなる

自分が納得するなら信じる

しかし、聖書は信仰によって生きると言われている

信仰によって生きるとは

　どういうことか、

　姿勢を知ろう

アビガエルのダビデへの姿勢から、クリスチャンの福音とキリストに対する姿勢を確認しよう